

高岡ロータリークラブ



2025/3/13

会長／田中 哲 幹事／山口 洋祐

No.35

例会日：木曜日 12:30～13:30 創立：1951/11/15 チャーターナイト：1952/4/15 創立順位：No.68

司会 車 会場監督 点 鐘 田中 会長

国歌斉唱

ロータリーの目的／四つのテスト

ゲスト並びにビジター紹介

■ゲスト

元高岡市教育長 氷見哲正様

会長挨拶／報告

■誕生祝

加藤 一博 さん (3/17・66 才)

中山 浩光 さん (3/17・48 才)

本多 剛治 さん (3/18・86 才)

才高 人思 さん (3/20・62 才)

■米山記念奨学会より功労賞 披露

■退会会員紹介 退会記念品の贈呈

瀬下 敦寛さん…一言

幹事報告

■理事会⇒本日 13:30～桐の間

■地区大会⇒3月16日(日)

12:45(点鐘)～黒部国際文化センター コラーレ

(該当の方はお願いいたします。)

送迎バス利用の方は集合・出発 10:30

■1 番テーブルミーティング⇒本日 18:00～ moku

■4 番テーブルミーティング⇒本日 18:00～ 鍋茶屋

■5 番テーブルミーティング

⇒3/19(水) 18:00～ moku

委員会報告

■雑誌委員会…ロータリーの友 3月号紹介

(安田委員長)

ニコニコBOX 13件 46,000円

田中会長／今週末は地区大会、4月は地区協と板橋来高、5月は利長公シンポジウムとIMと続きます。大変忙しい3ヶ月となりますが、ご協力をお願いします。

才高副会長／氷見元教育長様、本日の卓話よろしくお願いいたします。誕生日お祝いいただき有難うございました。

山口幹事／氷見様、本日の卓話よろしくお願いいたします。

山岡委員長、お帰りなさい。

加藤筆頭理事／誕生祝いをいただきました。

津嶋君／祝 3500 回記念例会！！

坂林君／氷見様、本日の卓話楽しみです。Zoomにて拝聴いたします。また、本日は moku での 1 番テーブルミーティング、ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

室崎君／ロータリーの真髄は「四つのテスト」です。ところが最近、ロータリー発祥の地アメリカで「四つのテスト」の真逆を行く男が現れました。トランプ大統領です。

1、真実かどうか？→平気で嘘をつく

2、みんなに公平か？→自分、自国最優先

3、好意と友情を深めるか？→分断と憎悪を深める

4、みんなのためになるかどうか？→自分、自国だけ誰かトランプに教えてやってくれないだろうか？

勝山君／瀬下様、栄転おめでとうございます。これからのご活躍祈願しております。

四津谷君／今日は母校芳野中学校卒業式でした。同窓会会長として出席してきましたのでスーツです。最後に RADWIMPS の「正解」を合唱し感動いたしました。ちなみに私の学ランは中高ともにボタンは全部残ってます。残念！！

山岡君／宗会議員として京都へ 2 週間滞在して、議会を終えて無事帰還しました。太って帰る予定でしたが、バタバタしてまして、祇園に行くこともなく、品行方正な生活を送ってまいりました。やっぱり高岡が一番いいです！

車君／先週は体調不良により、お休みさせていただきました。石崎副委員長には、誕生祝の日に代理を引き受けていただき、立派に務めていただき、ありがとうございました。1 週間体調不良のおかげで、1 キロ痩せました！

中山(浩)君／誕生日祝いありがとうございます。2 番テーブルの皆さん、テーブルミーティング楽しく参加させていただきました。

菅野君／皆出席祝いありがとうございました。これからも頑張ります！



<プログラム> 卓話

「文化財を支える」

氷見哲正様



現在、勝興寺文化財保存・活用事業団の理事長を務めています。平成10年に設立され、私は3代目として8年前に理事長に就任しました。勝興寺の保存修復事業の経緯や成果、さらには直面している課題についてお話ししたいと思います。

勝興寺の保存修理事業が始まったのは平成10年のことです。国が85%、県と市がそれぞれ6%、勝興寺が3%という負担割合で進められ、総額73億円という巨額の予算を投じて行われました。第1期工事は主に本堂の修復が行われました。本堂は勝興寺の中心であり、最も重要な建築物です。平成16年に完了し、続く17年から始まった第2期工事では、本堂以外の部分、たとえば大広間や式台、さらには外壁や屋根の修復が進められました。長期間にわたる工事の中で、文化庁や地元の職人たちの協力を得て、伝統的な技法を忠実に再現しながら作業を進めました。この結果、令和4年12月12日に勝興寺は国宝に指定されることになったのです。

国宝に指定されるには、文化財としての顕著な価値が認められる必要があります。勝興寺の場合、その建築技術や構造の独自性が高く評価されました。特に本堂の「建て登らせ柱」と呼ばれる技法は、西本願寺をはじめとする他の本願寺系の建築では見られない独自の建築様式として評価されました。大広間や式台についても、一般的な寺院建築では3組構成が主流ですが、勝興寺では2組構成となっており、さらに廊下部分に畳を敷いている点が特異な建築様式として注目されました。

国宝指定後は拝観者が急増し、令和5年には6万人の方が訪れるようになりました。ところが、令和6年元日の能登半島地震によって高岡市は大きな被害を受け、勝興寺も無傷ではいられませんでした。本堂では内陣の柱に亀裂が入り、壁の金箔が剥がれるなどの被害が発生しました。さらに、大広間や重要文化財である法蔵、式台門にも被害が及び、これらの修復が急務となっています。修復工事は令和7年2月から12月までの予定で、事業費は約6300万円となっています。この費用をどのように捻出し、どのように修復していくかが現在の大きな課題となっています。

地震の影響は建物だけでなく、拝観者の減少という形でも現れています。観光バスの運行が難しくなったこ

とが直接の原因で、拝観者は令和6年には3万人にまで減少しています。今後はインフラの復旧や観光ルートの再整備を進めることが喫緊の課題となっています。私は、文化財の保存と活用が地域社会にとって非常に重要な使命であると考えています。文化財は単なる建築物ではなく、私たちの歴史や文化そのものです。それを未来に受け継ぎ、次世代に伝えていくことは私たちの責任です。今後も多くの方々に訪れていただき、勝興寺の価値を知っていただくことが重要です。これからも文化財保存活動へのご理解とご支援をお願いしたいと思います。勝興寺という貴重な文化財を守り、未来に伝えるために、皆さんとともに取り組んでいきたいと考えています。

大谷会員 送別会

